

●補助事業概要

報告③

「交通空白」解消や地域の多様な関係者の「共創」による地域交通の維持・活性化の取組等を支援する取り組み

・「交通空白」解消緊急対策事業概要：

「交通空白」の課題があると自治体が判断した地域において、公共ライドシェア・日本版ライドシェアやAI デマンド、乗合タクシー等の「交通空白」の解消に向けたサービスを実施するための仕組みの構築を支援する事業を対象とします

・所轄：

国土交通省 総合政策局地域交通課
物流・自動車局旅客課

「交通空白」解消等 リ・デザイン全面展開 プロジェクト

「『交通空白』解消緊急対策事業」

共創モデル実証運行事業

モビリティ人材育成事業

日本版MaaS推進・支援事業
※3/6公募期間終了

「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト（令和7年度）

「交通空白」解消緊急対策事業

【担当部署】
・総合政策局（地域交通課）
・物流・自動車局（旅客課）

何らかの対応が必要な「交通空白」を抱える地域において、「交通空白」の解消に向けたサービスを実施するための仕組みの構築を支援します！

補助対象事業者

公共ライドシェア・日本版ライドシェア等、新たに導入する交通サービスの運行主体（運行委託する場合を含む）となる
地方自治体、交通事業者、NPO法人、観光協会、商工会、社会福祉協議会等又はそれらを含んだ協議会 ※

補助対象経費

① 事業実施のための基礎データ収集・分析、協議会・説明会等開催に要する費用
（悉皆ヒアリング調査・利用予測シミュレーション、有識者謝金・会場使用料等）
② サービス提供のために必要となる車両の導入、配車アプリ・運行管理等のシステム開発・導入、運転者募集等に
要する費用（車両の購入・リースによる取得、仕切板、ドライブレコーダー等の設置、運転者を募集するための広告費用等）
③ 実証事業に要する費用（運行経費、実証事業後の利用データ分析、路線・区域・料金設定等の検討等）

【事業イメージ例】

以下のような検討段階から地域の合意形成までの取組みについて、ワンストップの支援を想定

- 公共ライドシェア等の導入にあたり、実証運行する地域・時間帯の特定に向けた調査、利用予測シミュレーション等
- 実証運行の実施体制構築・合意形成に向けた地域内調整
- 実証運行に係る車両・配車アプリ等の導入、車両改装・ラッピング、運転者募集等
- 実証運行経費・実証運行後の利用データの分析・検証等
- 本格運行に向けた住民説明会

補助④

500万円まで定額、500万円を超える部分は2/3（上限1億円）
※ 車両購入に係る費用については定額補助の対象外（車両購入は、対象事業者自身が有する車両がサービス提供のために活用することができない場合に限り）
※ 都道府県が主導するなど複数市町村が共同してサービスを提供することを予定している場合、補助対象経費のうち①については定額の引き上げ（上限2,000万円）
※ 一度本補助を受けた同一自治体内において同一類型の別の事業（別地域での実施）への補助を受ける場合、2件目以降の補助については1/2

問合せ先

令和7年度「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト事務局
メールアドレス： contact@kotsu-kuhaku.jp
コールセンター： 0570-000984

公募期間

令和7年3月10日（月）～4月7日（月）
【採択時期目安：令和7年4月中（予定）（先着順）】
※ 既存路線の廃止・減便等を受けた代替交通の導入であって、かつ緊急的な取組の必要性が認められる限り、先んじて採択が行われる場合があります。



出典：令和7年度「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト

●補助事業内で取り組みたいこと

横手市地域公共交通計画

-プロジェクトに紐づく施策・事業-

プロジェクト	実施事業	具体的な取り組み事項	実施スケジュール(年度)					実施主体
			R6	R7	R8	R9	R10	
プロジェクト① 交通網整理・見直し推進プロジェクト	施策①-1 生活バス路線の維持	○国や県の補助を活用した支援の継続 ○利用状況に合わせたダイヤの調整 ○公共施設等の整備状況を踏まえた運行ルートの見直し ○交通結節点の利便性向上	既存事業の継続実施 新規事業の検討 → 実施					交通事業者・横手市
	施策①-2 地域内交通の整理・見直し	○横手市循環バスの運行形態の見直し ○横手デマンド交通の維持と運行内容の協議継続 ○廃止代替交通の整理・見直し	協議・検討・調整	実施				交通事業者・横手市
プロジェクト② 情報入手環境向上プロジェクト	施策②-1 ICTを活用した利便性向上の検討	○バスロケーションシステムが利用できる路線の拡大	協議・検討・調整	実施				交通事業者・横手市
	施策②-2 スマートフォンアプリ等と連携した公共交通情報の入手環境整備	○「MINEBA(ミネバ)」や「よこてれび」などの既存システムを活用した公共交通に関する情報発信の環境整備	協議・検討・調整	実施				横手市・交通事業者
プロジェクト③ 地域が守り・育てる公共交通プロジェクト	施策③-1 地区交流センター事業との連携による多様な取り組みのサポート	○自主運営組織など、地域で暮らしの足・おでかけの足の確保に向けた取り組みに対する支援	実施					地域住民・横手市・交通事業者
	施策③-2 地域が主体となった運行の検討支援	○地域ごとの実情に応じた取り組みやすい環境の支援 ○ライドシェアの導入可能性の検討	実施					地域住民・横手市・交通事業者
プロジェクト④ 公共交通利用促進プロジェクト	施策④-1 地域公共交通を利用してもらうきっかけづくり	○観光施設や飲食店等のサービスを組み合わせた企画乗車券の販売 ○スーパーと連携した利用促進の実施	協議・検討・調整	実施				交通事業者・横手市
	施策④-2 JR北上線の利用促進	○JR北上線の利用促進に向けた取り組みの継続実施・支援	実施					JR北上線利用促進協議会
	施策④-3 運転免許証自主返納者や高齢者への支援	○運転免許証自主返納者に対する公共交通利用回数券交付の継続実施 ○交通助成券の交付(自家用車を持たない75歳以上)	実施					横手市・交通事業者・横手警察署

出典：横手市地域公共交通計画（概要版）

補助事業（「交通空白」解消緊急対策事業）を活用

関連 施策

プロジェクト①交通網整理・見直し推進
↳ 施策①-1：生活バス路線の維持

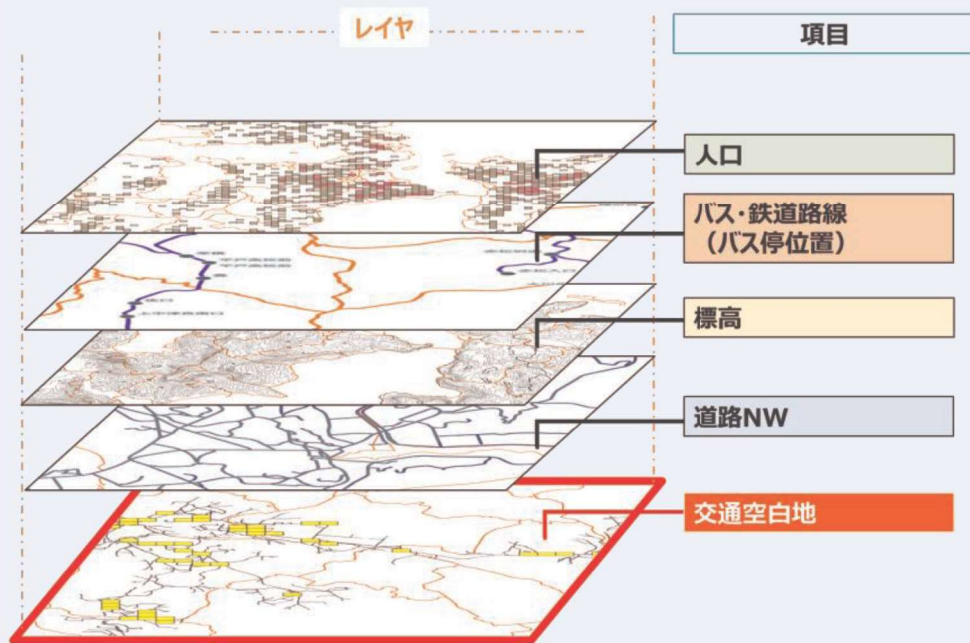
プロジェクト①交通網整理・見直し推進
↳ 施策①-1：生活バス路線の維持

【R7実施内容】

- テーマ（イメージ）：
生活の足維持・確保に向けた地域概況データの把握及び、公共
ライドシェア導入等に向けた交通空白地の抽出
- 手順（採択後）
 - ① 調査：細かに現況を可視化・把握
✓ 地域の実態に見合った人口属性別（年代・世帯等）、
公共交通路線、走行圏域等を重畳→**交通空白地抽出**
 - ② 検討：具体策の検討
✓ 抽出した交通空白地と近隣公共施設位置を掛け合わせ、
定量指標の算出、交通空白地に対する施策の検討

● 具体例：ゼンリン地図情報を活用した交通空白地の精緻化

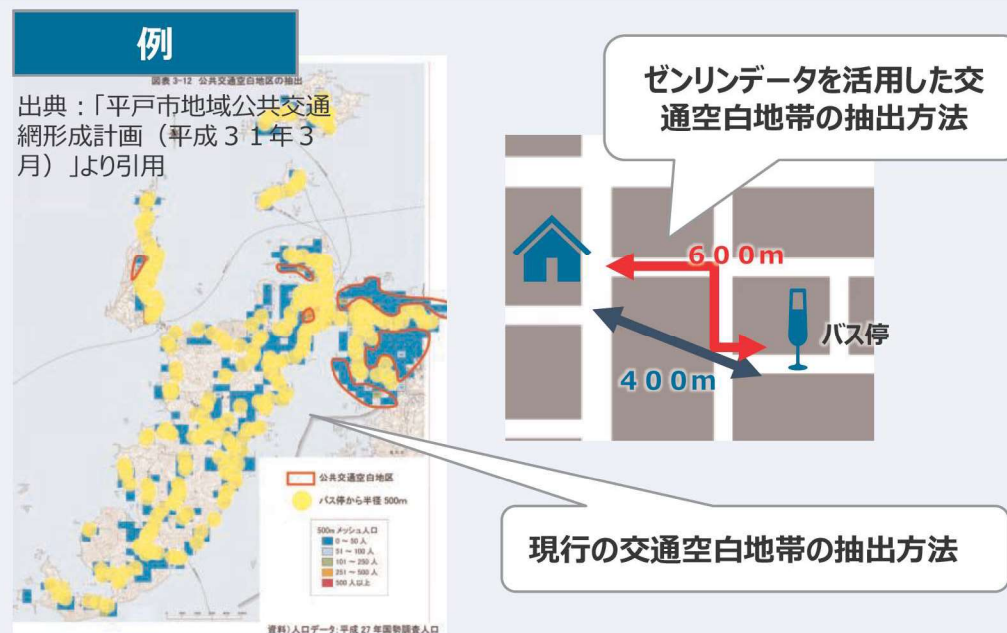
オープンデータ×ゼンリン地図データを活用して地域現況を整理し、精緻化



バス停・鉄道駅、標高などオープンデータと住民基本台帳を取り込んだ商材（ゼンリン建物ポイントデータ）および歩行者・道路NWのゼンリンしか保有していない情報の掛け合わせが可能

定量指標を元に施策検討を深化→具体施策の明確化

精緻な情報を交通分野へ活用 事例：交通空白地の抽出



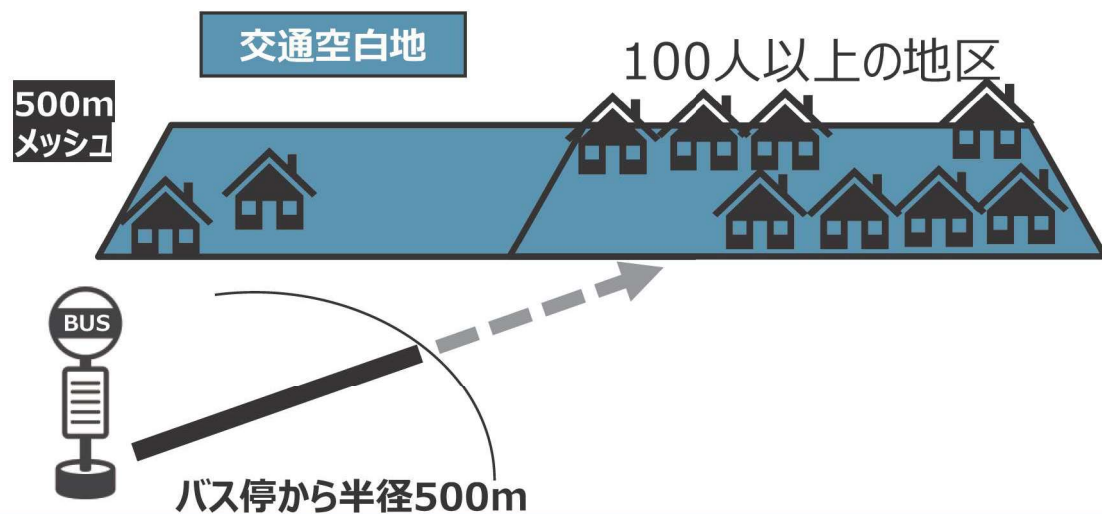
交通空白地を抽出する際、バス停から半径500m以内（直線距離）でなく、バス停からの道路距離で500m以内を抽出することによって、より実態に近い把握・分析が可能

● 具体例：交通空白地の抽出①

◆ 地域交通計画策定業務にて以下見直しを実施（事例：長崎県平戸市）

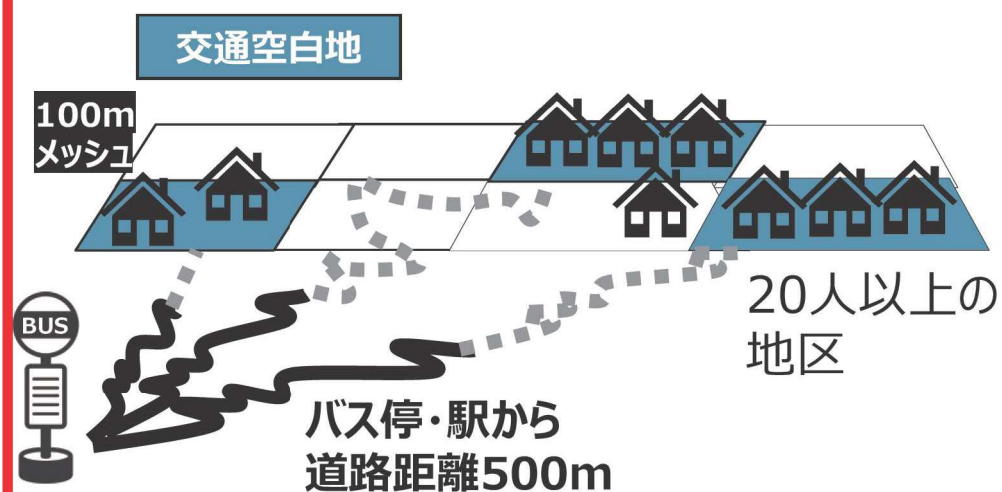
半径（直線距離）から空白地を特定した場合

- ①②をともに満たす地区を「公共交通空白地区」という。
 - ① 定時定路線のバス停（乗合タクシー含む）から 500m以上離れた地区
 - ② 集落人口が概ね 100 人以上の地区*
※500mメッシュ内の人口において連坦するメッシュ人口の合計が 100 人以上を目安とする。



道路距離から空白地を特定した場合

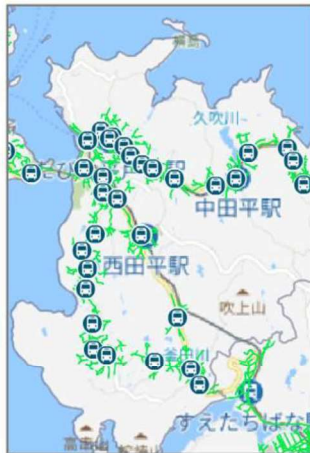
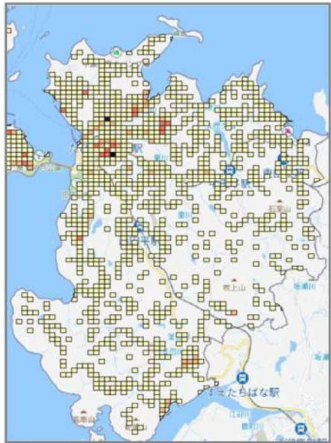
- 以下該当する地域を「公共交通空白地区」という。
 - 100mメッシュ内に20人以上居住しており、バス停・鉄道駅から 500m以上離れた地域。



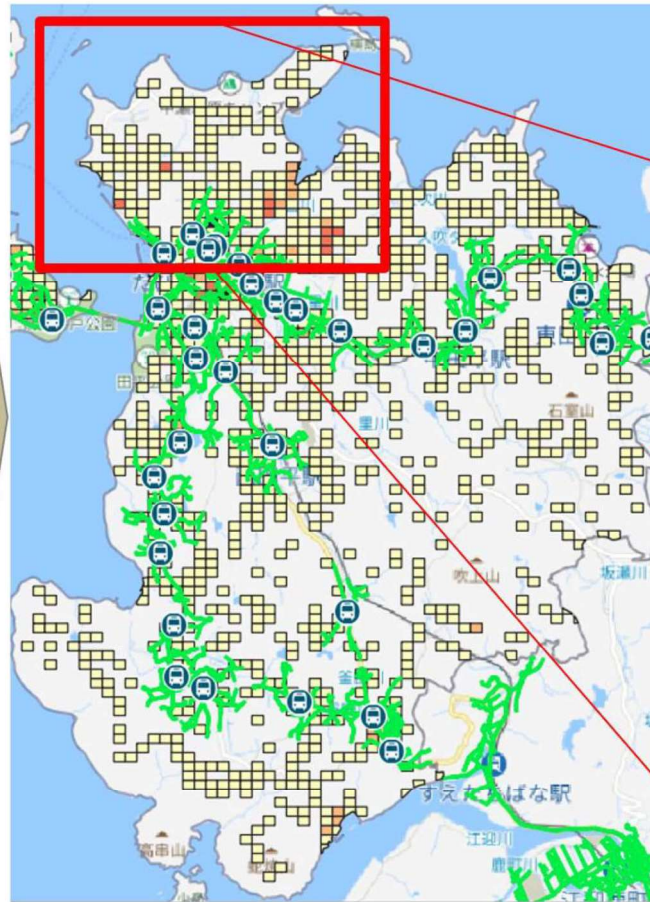
● 具体例：交通空白地の抽出②

人口×道路距離を用いた交通空白地の抽出

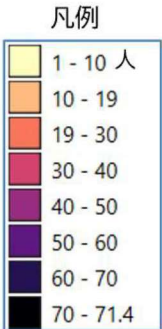
100mメッシュ単位での交通空白地抽出



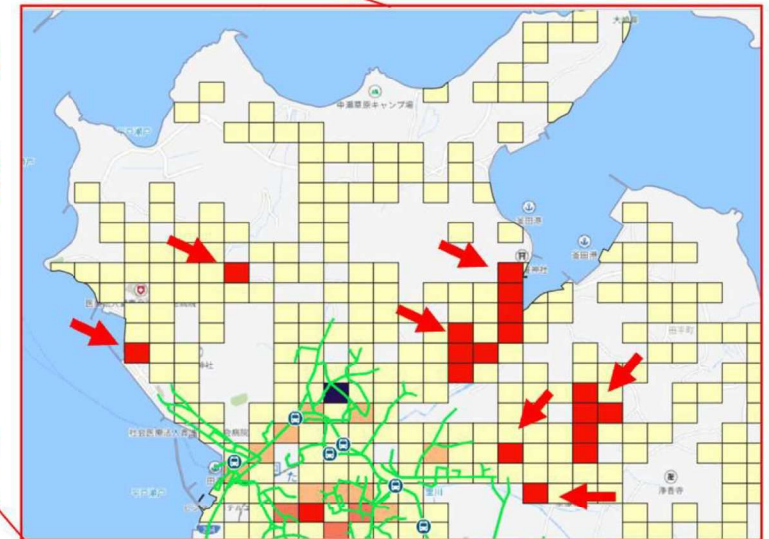
人口メッシュ(100m)
とバス停からの道路距離
を重ねる



凡例
バス停
バス停起点道路距離500m



ズームした場合

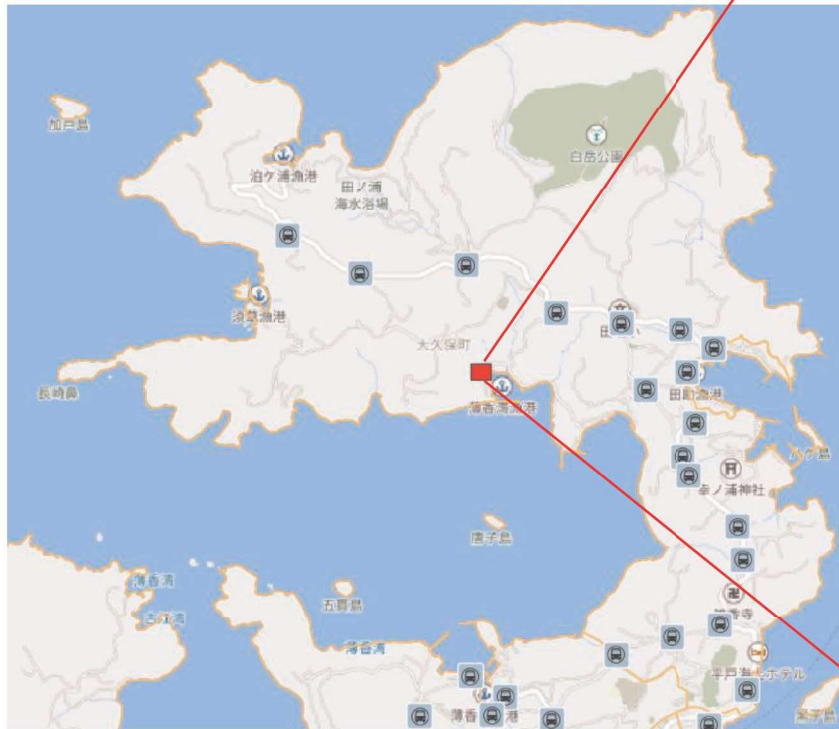


バス停から遠く、人口も一定以上の為
交通空白地として詳細に特定が可能

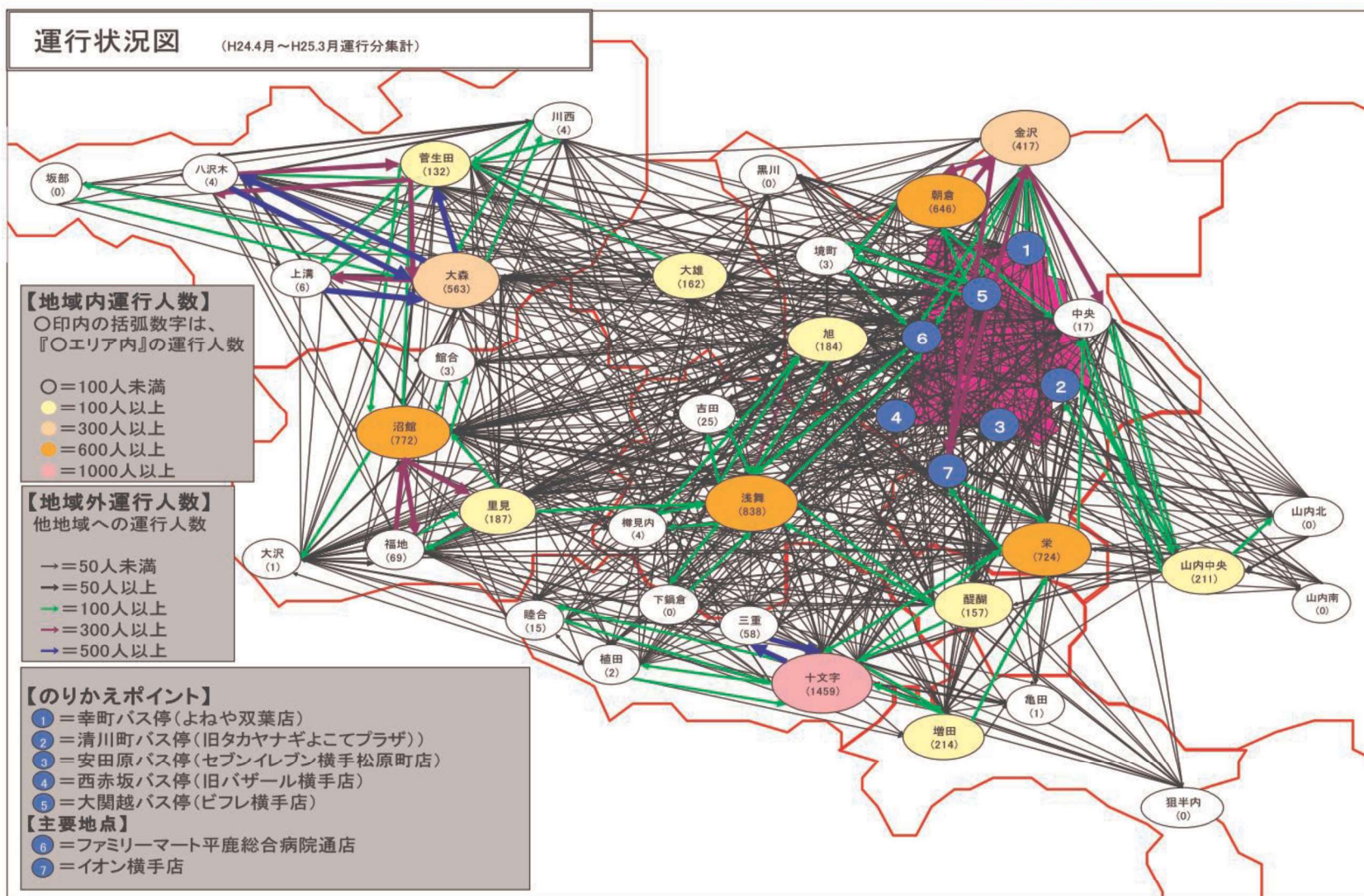
● 具体例：交通空白地の抽出③

平戸市北部の事例：

100mメッシュあたり20名以上居住しており、バス停（光の園保育園前）から居住エリアまで700m以上離れている地域の為、特定した。



● 具体例：地域内交通のODデータ



左：イメージ（スパイダーマップ）

地域内交通（市循環バス、横手デマンド交通、路線廃止代替乗合タクシー、コミュニティバス、自家用有償旅客運送など）のODデータを用いて、起点から終点までの人の流れを可視化する。